



<建設概要>  
 建物名称: 急性医療総合センター  
 建築場所: 西宮市武庫川町1-1 (10号館東側)  
 建物面積: 2,581平方メートル  
 延床面積: 15,401平方メートル  
 構造種別: 鉄筋コンクリート造、免震構造  
 階数: 地上7階建、地階なし  
 建物高さ: 約35.8m  
 工事期間: 平成23年3月~平成25年1月〔予定〕  
 開設予定: 平成25年6月〔予定〕

# 地域の救急医療体制構築のために

## 映像および心電図の伝送システムを導入

特定機能病院である兵庫医科大学病院では、その役割を十分に果たすため、院内だけでなく院外の医療機関などとも連携を深めている。その中で、救急医療体制の構築に新たな一歩を踏み出したのがCCU（冠動脈疾患集中治療部）だ。

CCUは、急性心筋梗塞、不安定狭心症などの急性冠症候群を主に受け入れる病棟で、年間150名ほどを収容。24時間体制で、心臓カテーテル治療などを速やかに行えるような体制を整えている。

「発症から、血流を再開させる再還流までの時間が180分以内、病院に到着してからだと90分以内が推奨されてい

## CCUの取り組み

ます」と話すのは、CCUの部長である冠疾患科の大柳光正主任教授。遅くなるほど生命の危険や障害が出る可能性が高くなる。

文字通り一分一秒を争うこの状況に対応するため、西宮救急隊とともに導入したのが、救急車内にビデオカメラと心電図検査機器を設置し、携帯電話回線を使って、心電図波形と映像を伝送するシステムだ。救急車内に固定されたカメラ



おおやなぎ みつまさ  
 冠疾患科 大柳 光正 主任教授

と救急隊員が扱うハンディカメラで撮影された映像および心電図などの情報はすぐさま病院に送られ、連絡を受けた病院の医師がそれらの情報から病状などを判断する。医師からの指示も随時救急車に送られる。

従来であれば、病院に搬送された患者さんはまずCCUか救命救急センターに運ばれ、そこで心電図をとるなどの検査を受けた後、必要だと判断されれば心臓カテーテルの医師を呼んで、カテーテル室を準備し、処置を行っていた。しかしこのシステムを使えば、搬送中に医師が病状を判断。病院に到着した時には心臓カ



テーテルの準備ができた処置室へそのまま運ぶことも可能だ。これにより「病院到着後10分以内に心臓カテーテル室に入る事が可能」と大柳主任教授。少なくとも、従来より20〜30分早く再還流できると言う。

また、このシステムであれば、急性冠症候群と判明した時点で、対応できる設備がある病院のうち救急車のいる位置からもっとも近いところを探してそちらに搬送する指示もでき、地域医療の充実に大きく貢献する。

まだシステムを導入した救急車の台数は限られているが、「将来的にはすべての救急車に設置し、より広いエリアで行いたい」と大柳主任教授は期待を寄せる。

## さらなる救急医療体制の充実に向けて

兵庫医科大学では、10号館の東側に7階建ての「急性医療総合センター」を建設する

ことが決定した。現在、平成25年6月のオープンに向けて着々と準備が進められており、CCUもここに設置される。

センターには、地震や洪水などの災害時にも機能する救命救急センター、手術センター、集中治療センター、周産期センターなど急性期医療の中核をなす施設が設置され、その中にカテーテルなどで血管内手術を行うIVRセンターも設置される予定だ。

また、施設だけではなく、西宮市をはじめいくつかの市町の救急隊との勉強会を行うなど、人的な関係、体制づくりにも余念がない。

兵庫医科大学病院は、阪神・淡路大震災やJR福知山線脱線事故など、大規模災害時における救急医療も実践してきた。災害拠点病院として、また地域医療の核となる病院として、これらの経験や実績を活かした救急医療体制を確立することが期待されている。

## 急性冠症候群の場合の搬送から処置までの流れ

